

● 持続可能な開発のための教育（ESD=Education for Sustainable Development）

人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等、人類の開発活動に起因する現代社会における様々な問題を、各人が自らの問題として主体的に捉え、身近なところから取り組むことで、それらの問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらす、もって持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動です。

➡ **SDGs実現に向けた人づくり**

（第2期ESD国内実施計画（R3.5持続可能な開発のための教育に関する関係省庁連絡会議）から抜粋）

● ESD推進ネットワークの構築

経 緯：ESD国内実施計画に基づき、**文部科学省と環境省が共同**で2016年度に**ESD活動支援センター(全国センター)**を、2017年度に**8箇所の地方ESD活動支援センター(地方センター)**を開設。ESD活動支援センターを中心に、全国各地に**地域ESD活動推進拠点**を展開。

体 制：**ESD活動支援センター、地方ESD活動支援センター、地域ESD推進拠点、ESD活動支援企画運営委員会**で構成。

機 能：**①ESD活動を支援する情報共有機能、②現場のニーズを反映したESD活動の支援機能、③ESD活動のネットワーク形成、ESD実践の学びあいの場の促進機能、④人材育成機能**

<地域ESD拠点の例>

●教育関係機関・ネットワーク

ユネスコスクール、教育委員会、社会教育施設、環境教育施設 等

●学術・研究機関・ネットワーク

福岡教育大学、九州大学水素エネルギー国際研究センター 等

●地方自治体・行政・ネットワーク

勝山市、鹿島市建設環境部ラムサール条約推進室 等

●公益法人

（公財）キープ協会、（公財）肥後の水とみどりの愛護基金 等

●NGO/NPO

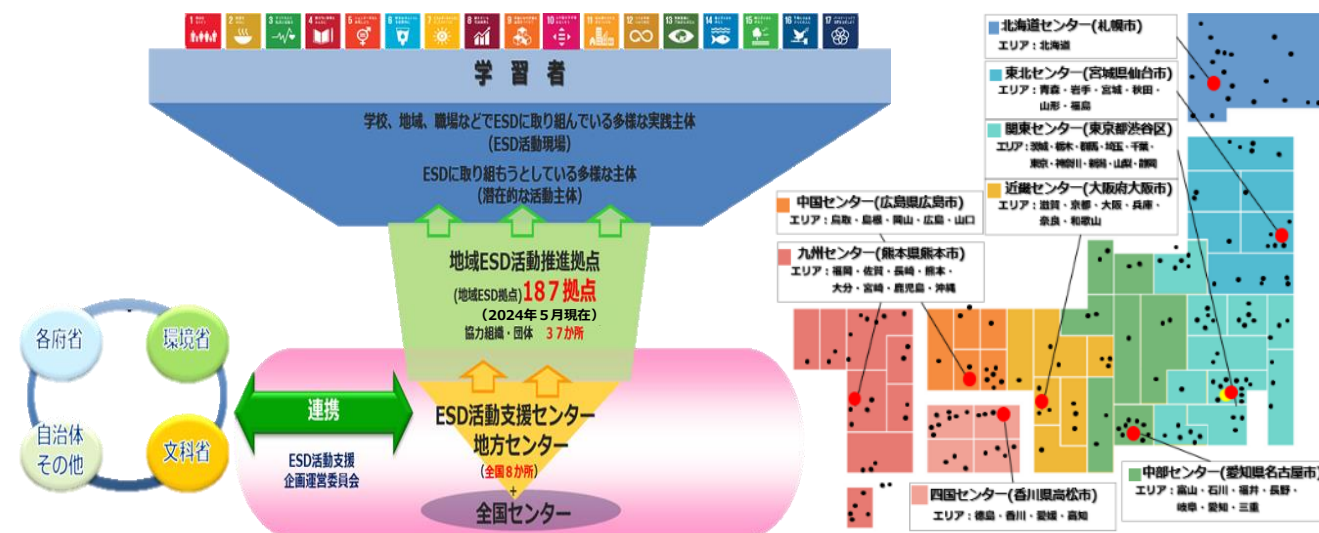
NPO法人隠岐しぜんむら、NPO法人エコプランふくい 等

●企業等

サンデンフォレスト、キャノンテクノパーク、花王エコーボミュージアム 等

●その他

ESDコンソーシアム、国連大学RCE地域拠点 等



地方ESD活動支援センターの活動例（北海道、東北）

（注）住所、TEL、E-mailは令和6年5月現在の情報

北海道センター

住所：北海道札幌市中央区大通西5-11 大五ビル7階
TEL：011（596）0921
E-mail：inf@hokkaido-esdcenter.jp
担当都道府県：北海道

●札幌市円山動物園×気候変動教育プロジェクト

- 動物園での気候変動を切り口とするESDの開発・実践の可能性を検討するため、関係者による連続ワークショップを開催。
- 成果は道内の動物園・水族館に共有し、プログラムの作成、ネットワーク化を目指す。（令和5年度）



園内フィールドワーク



ワークショップの実施状況



アイデア出しの作業

内容とスケジュール

第1回
2023年7月20日

- 依頼者とアイデア出し
目的と進め方の確認
- 円山動物園の基本方針や環境教育の取り組みの情報共有
- 園内見学とアイデア出し

第2回 9月6日

- コンテンツの検討
ワークショップ参加者からのアイデア出し
- 全体集の整理と意見交換

第3回 10月31日

- コンテンツ整理と実施体制の検討
- 体験や特長、めあてを踏まえた具体的なコンテンツの検討
- 実施するまでの経路と解説書の検討

2024年1月26日
ESD地域フォーラム

- 成果の発信
- 3回のワークショップの成果の発信
- 気候変動対策、生物多様性保全に果たす動物園の役割について公開でディスカッション

●ESDアドバイザー派遣制度

- 学校や社会教育施設を対象に、道内各地・各分野でのESD導入や実践、現場の課題解決を支援するため、大学教授等を「ESDアドバイザー」として派遣。

●私たちアドバイザーが応援します！



大津 和子 さん（北海道教育大学 名誉教授）
SDGs、ESD、国際理解教育に関わる研究の進め方のほか、これらのテーマについて講演やワークショップを行うことができます。
【キーワード】主体的・対話的で深い学び／SDGs／国際理解教育



金澤 裕司 さん（前 羅臼町教育委員会 自然環境教育主幹）
「一人も取り残さない」というSDGsの目標達成のためにはあらゆる学びの中心にESDを据える必要があります。ESDによって環境観、行動、ライフスタイル、生き方などあらゆる事項が密着して関連している事実を指摘し、学ぶ機会が創出されます。
【キーワード】自然と人間／地域の持続的発展／総合的な学習による学力向上



松田 剛史 さん（専攻大学人間生活学部人間生活学科 准教授）
SDGs達成年の2030年に向けて、私たちのソーシャルデザインを考える議論やワークショップをいたします。オンラインでの研修も積極的に対応します。
【キーワード】SDGs／カリキュラム・マネジメント／PBL／教育課程

※写真左側、右側は2023年4月撮影

<利用者の声>

対象：校長、教頭、教務主任等方法：PPTを使ったESDの説明、対面でのお話等
・新しい学習内容を起こすのではなく、国際的な視点を持ち様々な分野の横断的学習を実践し「持続可能な世界を創る」ことを意識していきたいと思った。
・大変わかりやすく話していただき、参加者が自分事としてとらえられました。

東北センター

住所：宮城県仙台市青葉区本町3-2-23 仙台第2合同庁舎1階
TEL：022（393）9615 E-mail：info@tohoku-esdcenter.jp
担当都道府県：青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

●ワールド・気候スタディーズESD／SDGs

- NPOと連携し、秋田県大曲南中学校において、生徒たちがキリバス共和国の子供たちとオンラインで交流する授業を実施。
- 気候変動に直面している同世代の子供たちとの対話の場を創出することにより、環境問題への当事者意識や行動変容を促す学びの機会を提供した。（令和4年度）



全校生徒による
ワークショップ



中学生とキリバス共和国の子供たちのオンラインでの交流



●ローカル課題から考える気候変動教育

- 新たなプログラムを生み出すのではなく、既存の取組や環境活動に、気候変動や地域課題解決の視点を取り入れた関連教科と連動したプログラムづくりを目指し、青森市内の2つの小学校において外部講師による出前授業や、教員向け勉強会、交流会を実施。（令和5年度）



リンゴ農家、ホタテ漁師、種苗店（農家）を招き、気候変動の影響について学習
（青森市立堤小学校）



青森大学と連携し、台湾とベトナムの留学生と各国の気候変動の影響をテーマに交流
（青森市立千刈小学校）



子どもたちが作成した「SDGsかるた」を用いて、学生とともにSDGsについて楽しく学習
（青森市立千刈小学校）

地方ESD活動支援センターの活動例（関東、中部）

（注）住所、TEL、E-mailは令和6年5月現在の情報

関東センター

住所：東京都渋谷区神宮前5-53-67 コスモス青山地下1階
TEL：03（6427）7975 E-mail：kanto@kanto-esdcenter.jp
担当都道府県：茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、
神奈川、新潟、山梨、静岡

●気候変動じぶんごと化プロジェクト

- 千葉県流山市立東部中学校において、外部講師による気候変動や防災をテーマとした講義のほか、中学校が避難所となることを想定した「避難所開設訓練」を自治会と協力して実施。気候変動と防災を体験や探究活動を通じて掛け合わせることで、気候変動の自分ごと化を促す機会を創出した。（令和4年度）
- さらに、気候変動の緩和策の自分ごと化を促すため、地域の課題や身近な題材等と気候変動問題を掛け合わせながら行動変容に結びつけるためのモデルプログラムの開発・実践を、地域ESD拠点及び専門家等のアドバイザーとともに実施。（令和5年度）



気候変動による水害リスクについて学習



ハザードマップを用いて災害時の行動を想定



「誰一人取り残さない避難所開設」を実践訓練

●ESDユース応援企画 SDGs文化祭

- 中高生が、地域や学年の異なる他校の生徒や企業のSDGs担当者に向けて、SDGsの達成に向けたアクションを発表し、様々な立場の人たちとの交流を通じて、フィードバックを得る学び合い場を創出。



参加した中高生からは、途上国の教育支援、中高生と大人がSDGsについて語る場づくり、福島のオーガニックコットン、廃棄される展示新聞のアップサイクルのテーマについて発表がなされ、専門家や企業担当者からアドバイスを受けた。



中部センター

住所：愛知県名古屋市中区錦2-4-3 錦パークビル4階
TEL：052（218）9073 E-mail：office@chubuesdcenter.jp
担当都道府県：富山、石川、福井、長野、岐阜、愛知、三重

●地域づくりのためのSDGs・気候変動社会教育

- 持続可能な地域づくりに資する学びを実践するため、企業研修や生涯学習等の機会に活用できるワークブックの作成に向け、研究会や実践セミナーを実施。「食」と気候変動をテーマにワークショップ等を行い、参加者で水産業の関連施設等を見学するなどして、地域社会での気候変動教育のあり方について検討を行った。（令和5年度）



海苔養殖の視察と食と気候変動をテーマとした実践セミナー



研究会で検討したワークブック（試作版）

●SDGs学生サミット

- ローカルSDGsの達成に向けて取り組むユースグループのアクションを発表し、交流を深める場づくりとして実施。地方自治体による施策紹介、有識者も交えてのパネルディスカッションを行い、アクションを深化を促す。



中部地方に所在する大学等の学生・ユースグループが、SDGsの取組・活動について発表
（写真は令和4年度の様子）



学生発表では共通様式を使ってSDGsの理解を深める。（コンポスト活動をしている学生グループの例）



地方ESD活動支援センターの活動例（近畿、中国）

（注）住所、TEL、E-mailは令和6年5月現在の情報

近畿センター

住所：大阪府大阪市中央区大手前1-7-31 OMM5階
TEL：06（6948）5866
E-mail：office@kinki-esdcenter.jp
担当都道府県：滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

●脱炭素社会の実現に寄与するライフスタイルを促すESD学習プログラムの創造

- 学校の授業にESDプログラムを取り入れる「ESD学習指導案」の作成に向けて、奈良教育大学ESD・SDGsセンターによる助言のもと、教員や地域ESD拠点等との意見交換等を実施。比叡山高等学校や箕面自由学園小学校での実証を通じてモデル事例を創出した。（令和4年度）



●事例から学ぶESD～学校と地域の連携～

- 学校でのESD活動の普及を目指し、授業カリキュラム、地域との連携、教材の活用等について、学校や自治体等による実践事例を踏まえながら意見交換を行い、課題を共有するとともに、方策を検討。（令和5年度）

- 第1回 昨年度のプロジェクトのおさらい
2023年9月30日（土）参加者 17人
・比叡山中学・高等学校 伊藤由季教諭
・奈良教育大学 中澤静男教授
- 第2回 学校および学校行政での実践事例について
2023年10月14日（土）参加者 19人
・和歌山大学教育学部附属小学校 中谷栄作教諭
・橋本市教育委員会 今田実教育長
- 第3回 NPOと自治体の連携事例の紹介
2023年10月27日（金）参加者 16人
・和歌山大学教育学部附属小学校 中谷栄作教諭
・池田市、NPO法人いけだエコスタッフ
- 第4回 教材の活用例と地域コーディネーターについて
2023年11月18日（土）参加者 12人
・木津川市まち美化推進環境保全指導員 西澤浩美氏
- 第5回 まとめ
2023年11月25日（土）参加者 13人
・福知山公立大学 谷口和弘教授



<参加者アンケートより>

- 参加された方とは、日常で会うことができないのでとても刺激になりました。
- 地域を教材化するために、コーディネーターの役割が重要と個人的には思っています。その点で教育委員会の実践事例は参考になった。

中国センター

住所：広島県広島市中区基町11-10
合人社広島紙屋町ビル5階 TEL：082（555）2278
E-mail：cgesdc@chugoku-esdcenter.jp
担当都道府県：鳥取、島根、岡山、広島、山口

●北栄町脱炭素ロードブック制作プロジェクト

- ユースや地域団体、自治体や企業の職員、温暖化防止活動推進員等の多様なステークホルダーが脱炭素地域を実際に取材し、北栄町の脱炭素に向けたロードブック作成に取り組む活動を展開。取材・発信活動を通じて、ESDで重視する能力を養い、人材を育成。



北栄町長との懇談



公民館の断熱DIYワークショップを取材

●広島県SDGsビジネスコミュニティ・ひろしまSDGs Meeting

- 大学生が、自ら取材した広島県内の企業等が実践しているSDGsビジネスを発表。また、企業等と学生がグループになって、地域課題の解決策を考案した。SDGsに取り組む多様な主体が交流し、大学生と社会人がSDGsについて学び合う場を創出した。（令和4年度）



取材した企業等の取組を報告。また、企業等に向けた新たな取組の提案もあった。

企業等と学生がグループワークを行い、リソースを生かした課題解決策を考案。

（写真）国際平和拠点ひろしま <https://hiroshimaforpeace.com/hiroshimasdgsmeeting2022-result/>

地方ESD活動支援センターの活動例（四国、九州）

（注）住所、TEL、E-mailは令和6年5月現在の情報

四国センター

住所：香川県高松市寿町2-1-1 高松第一生命ビル新館3階
TEL：087（823）7181
E-mail：info@shikoku-esdcenter.jp
担当都道府県：徳島、香川、愛媛、高知

●四国ESDバーチャル大学

- オンラインや実践を通じての意見交換、マッチングの機会を創出するとともに、学びや実践のアーカイブづくりを行うことで、地域とつながるESD・SDGsツーリズムの促進、気候変動教育との連動など、具体的なプロジェクトの実現を目指す。
- 令和3年度から開始し、教育機関や企業等からの事例提供等を通じて、「衣類」、「食」、「住」、「人権」、「災害」、「地産地消」等、様々な切り口から、SDGs、気候変動等について主体的に考え、行動変容やネットワークの構築につなげる場を創出。



オンラインによる交流



アーカイブ化して
ウェブサイトで公開



●四国ESDフォーラム

- 四国地域におけるESD、SDGs実践事例の紹介、意見交換等を通じて、これからの四国におけるESDや持続可能な地域づくりについて共に考え、協働する場を創出。
- 令和5年度は、地域ESD拠点である新居浜市教育委員会によるESDの普及と実践に関する発表や、四国各県の高校生によるESDやSDGsの取組を紹介し、四国におけるESDの更なる推進を目指す。

＜令和4年度の四国ESDフォーラムから＞



徳島県立富岡東高等学校の
発表資料



新居浜市立別子中学校の
発表資料



フォーラムの様子

九州センター

住所：熊本県熊本市中央区花畑町4-18
熊本市国際交流会館2階
TEL：096（223）7422
E-mail：contact@kyusyu-esdcenter.jp
担当都道府県：福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、
鹿児島、沖縄

●気候変動教育推進に向けた環境学習施設のネットワーク形成

- 自治体等が設置する環境学習施設において、気候変動教育に関する情報収集や教材づくりが更に活発化するよう、主要な環境学習施設をつなぎ、情報交換やノウハウの共有等の学び合いを実施。（令和5年度）



●中学校におけるSDGsを活用したキャリア教育

- SDGsの考え方を活用したキャリア教育のカリキュラム構築を支援するため、令和3年度から4年度にかけて、教職員研修やワークショップ、中学校での実践授業等を実施し、モデルパターンの構築を行った。（令和3年度、4年度）



教職員研修、中学校での実践授業及びワークショップの様子